

フランス映像産業システムと 海外ビデオ・オン・デマンドの関係

畔堂 洋一

大阪市立大学大学院 文学研究科 言語文化学専攻
ドイツ語フランス語圏言語文化学専修 後期期博士課程2年生

Keywords : フランスのメディア市場, フランス映像産業, ビデオ・オン・デマンド,
Netflix, メディアに関するタイムライン

1. はじめに

本発表では、現代のフランス映像産業システムが、近年における海外のビデオ・オン・デマンド（以下 VOD）とどのように関係しているのかということについてみていく。具体的には、最初に 21 世紀以降のフランスにおけるメディア市場の動向について解説し、次にフランス映像産業システムを特徴づける 4 つの制度、すなわち国立映画・映像センター（以下 CNC）の資金助成制度、テレビ局に対する放送割当制および資金投資義務、メディアに関するタイムライン（Chronologie des médias、以下タイムライン）を紹介、最後に現代フランス映像産業が海外の VOD にどのようにしてそのシステムを適用させようとしているのかということを見る。

2. フランスの映像メディア市場

最初に 20 世紀以降のフランスの映像メディア市場について、CNC が毎年発行している『年度報告書』（*bilan*）を参照してみていく。結論を述べると、近年のフランスではサブスクリプション制の VOD（SVOD）である Netflix の台頭が著しく、Amazon Prime Video（Amazon）もフランスの有名な VOD である OrangeVOD や CanalVOD に並ぶほどの利用者を獲得してきていること、映画館入場者数や平均テレビ視聴時間が近年になって低迷している様子はみられない一方で、物質的なビデオは淘汰されてきているということを確認することができた。

3. フランス映像産業を支える 4 つの制度

フランス映像産業においては国家の法的な介入があることにより映像メディア市場が棲み分けされており、映画産業を重点的に支援するための映像産業システムが構築されている。具体的には、映像産業全体の資金の流れを統括する CNC、テレビ産業にある資金力や放送網を映画産業にいかすための資金投資義務や放送割当制、そして各メディアが新作映画を放送・リリースするのに必要な待機期間を定めているタイムラインの 4 つである。VOD が普及するまでは、テレビ産業が映画産業を支えるという構造が成り立っており、テレビ局からの徴税金を主な財源とする CNC による助成金、およびテレビ局から拠出された資金によって映画が製作

され、放送割当制によって資金的な助成をうけた映画が、はじめに映画館で上映され、その後テレビで放映されるというシステムができあがっていた。しかし、インターネットを利用したVODの普及で人々が自分の好きなタイミングで映画を視聴することができる時代になり、テレビ局に対する放送割当制は実質的に意味をなさなくなった。また、Netflixなどの大手VOD事業者が映画とみまがうオリジナル映像作品を製作して独自のプラットフォームで配信するようになり、映画館で公開されているか否かで映画と映像作品を区別するタイムラインの意義に疑問がもたれるようになってきた。

4. タイムラインの重要性

2017年のカンヌ映画祭においては、Netflixの出品した映像作品である『オクジャ』(Okja)と『マイヤーウィッツ家の人々』(The Meyerowitz Stories)がフランスの映画館で公開されていないことを理由にコンペティション部門から除外され、現代において映画とは何かという議論をよんだ。この議論については、2018年のカンヌ映画祭でNetflixが作品を出品しないということでひとまず幕引きとなったが、フランスはNetflixのようなオリジナル映像作品を製作するSVODに対応しようとするべく、論争の背景にあったタイムラインを改訂するに至った。すなわち、フランスでの映画製作のためにCNCの徴税や資金拠出に協力し、自社プラットフォームで積極的にフランス映画を配信するなどの条件をクリアすれば、海外のSVODが新作映画を配信するために必要な待機期間を短縮するという措置が設けられた。この改訂によって海外のSVOD事業者がフランス映像産業システムにおけるそれぞれの制度に自発的に適応していくことが促されたと考えられる。したがって、Netflixの台頭に対して現代フランス映像産業システムの要となっている制度がタイムラインであるといえる。

5. おわりに

VODの普及でフランスの映画館やテレビから人が離れていっているという様子はなく、フランス映像産業がタイムラインの改訂をもって海外のVODをシステムにとりこもうとしていることを確認することができた。現在のところフランス映像産業はそのシステムを維持することができていると思われる。しかし、改訂されたタイムラインについても、Netflixのような海外のSVODには依然としてかなり厳しい条件が課されているという見方もある。海外のVODの普及で映像産業のグローバル化がますます進行していくなかで、フランス映像産業はそのありかたを維持していくことができるのかということは今後も調査していく必要がある。

参考文献

Le Diberder, A (2019) *La nouvelle économie de l'audiovisuel*, La Découverte. Paris.

Le Roy, Marc (2018, décembre 21) "Nouvelle chronologie des médias : des évolutions trop timides", *ina la revue des media*. <<https://larevuedesmedias.ina.fr/nouvelle-chronologie-des-medias-des-evolutions-trop-timides>> (最終閲覧日 : 2021年10月31日)